様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　23 年　4 月　28 日現在

機関番号：24402
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008 年度～2011 年度
課題番号：20720219
研究課題名（和文）
マレーシアの河川災害をめぐる社会関係と地域間協力
研究課題名（英文）
Social relationships and inter-regional cooperation over riverine disasters in Malaysia
研究代表者
祖田　亮次（SODA RYOJI）
大阪市立大学大学院文学研究科・准教授
研究者番号：30325138

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：マレーシア・サラワク州、伝統的河川改修工法、信濃川、国際協力、河岸浸食、洪水、減災、防災

１．研究計画の概要

本研究は、マレーシア・サラワク州における河川水害（河岸侵食および洪水氾濫）の実態について、現地調査をもとに詳細な基礎データを収集し、その上で災害予防あるいは減災のための対策可能性について考察するものである。具体的には、サラワク州の主要河川であるラジャン川を主たる事例として取り上げ、河川流域の地形的現象を広域的に観察すると同時に、現地住民からの聞き取りを行うことで、河岸侵食や洪水による被害の実態を解明する。一方、こうした災害への対応策としては、現地では、神話や伝承の次元での了解方法が存在していると同時に、集落移転や場当たり的護岸工事などの具体的対応策も見られる。ただし、いずれも現実の問題の根本的な解決に至っているわけではない。これとは別に、日本の伝統的河川改修工法を現地に移転する計画も、JICA スタッフなどから提案されているが、これらの国際協力の推進プロセスも本研究の観察対象である。日本の伝統工法がラオスに移転されたという過去の経緯も勘案しつつ、ラオスで成功した技術移転がマレーシアで成功するためには何が必要なのか、もし成功しないとすれば、何が障壁となっているのか、という点についても、関係者や各機関へのインタビューを通じで明らかにする。これらの調査は、現地の文化や社会の実態、あるいは災害認識・自然認識を考慮したうえで、国際協力あるいは地域間協力の進め方としてどのような方法がありうるかを考察する事例となる。

２．研究の進捗状況

マレーシア・サラワク州における現地調査は、地形学的な観点と人文学的な観点から行い、河岸侵食と洪水氾濫の実態、および、現地住民の認識する災害発生状況について、一定の知見を得ることができた。それらの成果の一部については、地理学関係の学会や国際セミナーでの発表、学術誌への投稿などを行った。また、地形学者とともに行った調査については、投稿用の別稿を準備している段階にある。

マレーシア・サラワク州における災害の歴史的検討、および、災害をめぐる人々の自然認識のあり方、災害文化の形成過程等については、現地住民へのインタビューを行っているほか、サラワク・ガゼット（政府官報）等を通じて情報収集を行っているが、まだ不十分な点があるので、引き続き最終年度に調査研究を進めることになる。

一方、海外に移転可能な日本の伝統的な護岸対策の技術については、新潟や愛知、岐阜で調査を行い、海外への技術移転に詳しい技術者へのインタビューを通じて、どのような技術が移転可能であるかについて検討した。さらに、台湾、インドネシアへの技術移転の経験を持つ技術者とともにマレーシアを訪問し、現地への導入可能性について、技術的・制度的な観点からの検討を加えたが、対費用効果および制度上の面で、ラオス、台湾、インドネシア等への技術移転とは異なる課題が明らかになった。これらのうち、制度的な問題については、研究会等での発表を行った。

最終年度は、上記のうち不十分な点を補足的に調査すると同時に、これらの個別の成果をとりまとめることが重要な作業になる。

３．現在までの達成度

おおむね順調に進展している。ただし、2011 年 3 月に予定していた研究打合せおよび調査旅行が、震災の影響でキャンセルされたため、2011 年度計画に若干の変更が生じる可能性もある。

４．今後の研究の推進方策

（1）2011 年度の予定としては、これまであまり深く検討できていない、歴史資料（サラワク・ガゼットなど）の分析を行う。これまで収集してきた河川災害そのものに関する現地データ、日本の伝統的河川工法に関するデータ、日本、ラオス、マレーシア間の地域間協力のあり方に関するデータは、一定の蓄積がなされたので、これらをまとめ、論文化する。

（2）プロジェクト終了後も継続される可能性のある長期的な見通しとして、今回のプロジェクトの成果を足掛かりとして、マレーシアに限定されない形で、東南アジアの河川災害を広く見渡し、日本の災害史や防災文化との比較検討を通じて、新しい河川文化論および災害文化論の構築を目指す。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① Yuhora, K., Soda, R. and Watabe, S. 2009. Bank erosion along the Rajang River in Malaysia. *Geographical Studies* 84: 99-110.（査読あり）

② 祖田亮次．2009．マレーシア・サラワク州における環境改変と「環境問題」．史林 92(1)：130-160.（査読あり）

〔学会発表〕（計 3 件）

① 祖田亮次・柚洞一央「マレーシア・サラワク州における河川災害」2009 年度日本地理学会秋季学術大会（2009 年 10 月 24～25 日、於・琉球大学）

② Soda, R. and Yuhora, K. "Bank Erosion in the Middle Basin of the Rejang River in Sarawak, Malaysia" International Seminar on the Perceptions of Natural Disasters among the Peoples of Sarawak. University Malaysia Sarawak (March 24, 2009 at University of Malaysia Sarawak)

〔図書〕（計 3 件）

① 祖田亮次．2011．辺境からのグローバル化—サラワク先住民のモビリティと地方都市社会の変容．大阪市立大学都市文化研究センター編『都市の歴史的形成と文化創造力』清文堂，263-293.

② 祖田亮次．2009．熱帯地域の森林開発と先住民社会—マレーシア・サラワク州を事例として．春山成子・藤巻正己・野間晴雄編『東南アジア』朝倉書店，380-389.